

瀬戸内「 」資料館 定期開館のお知らせ

公益財団法人 福武財団（香川県・直島）は、2023年4月より《瀬戸内「 」資料館》（宮浦ギャラリー六区）を毎週土曜日に定期開館します。

2019年より始まった、アーティスト・下道基行（したみちもとゆき）によるプロジェクト《瀬戸内「 」資料館》は、宮浦ギャラリー六区からさらに活動の場を広げ、隣接する「へんこつ」での展開もスタートしました。「宮浦ギャラリー六区」は調査結果を発表・展示し、収集した資料をアーカイブする「展示収蔵室」として、「へんこつ」は島民や島で働く人などが集い活動する「研究室」としてそれぞれ活用されていきます。

4月からの定期開館では、瀬戸内におけるおよそ100年の観光の変遷を様々なアーカイブ資料とともにご紹介いたします。



写真：山本紉

プロジェクト《瀬戸内「 」資料館》について

《瀬戸内「 」資料館》は、直島のフェリーターミナルから徒歩5分ほどの宮ノ浦地区を舞台に展開しています。プロジェクトの名称にある「 」の中には毎回の展示のテーマが表記され、展示に向けた一連の活動の記録や資料は、施設内のラックに保管されます。これまでの調査や展示の過程でおよそ500点の書籍や写真集などの資料を収蔵しており、訪れた方に手にとって読んでいただくことができます。

訪れる方が島の記録や記憶にふれ、新たな視点でこの地域のあゆみを振り返り、新しい関係性や島の未来をつくる場所を目指します。



展示収蔵室／宮浦ギャラリー六区
写真：山本紉

取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

ベネッセアートサイト直島 広報担当 太田・宮重

〒761-3110 香川県香川郡直島町2249-7 Tel.087-892-2550 Fax.087-892-2011

E-mail press@fukutake-artmuseum.jp <https://benesse-artsite.jp/>

「へんこつ」について

本プロジェクトは隣接する二つの建築を拠点に活動します。いずれの建物もかつては直島の人々の憩いの場として親しまれてきました。プロジェクトが始まった2019年からは、建築家・西沢太良（にしざわ・たいら）によって設計・改装された旧パチンコ店、「宮浦ギャラリー六区」（通称：六区）での展示を行ってきましたが2022年秋からは「宮浦ギャラリー六区」に隣接する旧焼肉店「へんこつ苑」を建築家・能作文徳（のうさく・ふみのり）が設計・改修し、活動の場が拡大しました。こちらは「へんこつ」という名称で、島民や島で働く人との交流、様々な活動を行う「研究室」として活用していきます。



研究室／へんこつ
写真：山本糾



研究室／へんこつ
写真：鈴木淳平

建築

旧パチンコ屋に隣接していた旧焼肉屋「へんこつ苑」が、建築家・能作文徳の設計・改修によって、島民や島で働く人との交流、様々な活動を行う研究室として生まれ変わりました。雨漏りがひどかった屋根を修繕し、天窓を追加することで建物全体が明るくなり、2階の床は撤去して吹き抜けにしたことで、伸び伸びと使える開放的な空間が実現しました。劣化していた建物全体も2階はステンレスワイヤー、1階は既存の鉄骨柱に沿った木造の耐力壁と筋交いで補強しています。建物の特徴として念頭に置いたのは、“使いながら空間に手を加えられる”こと。耐力壁の間には机や棚、ベンチが作り付けられ、建築構造を利用したDIYが展開されています。仕切りにポリカーボネートを使用した冷暖房が機能する部屋も後に追加され、過ごしやすさを確保しています。今後も活動の変容とともに、空間が成長していきます。

*中空ポリカーボネート板。段ボールのような構造で、ポリカーボネート板を合わせて、中骨を入れたプラスチック板材。軽量で高強度かつ断熱性にも優れている。

能作文徳（のうさく ふみのり）建築家

1982年富山生まれ。2010年能作文徳建築設計事務所を設立。

代表作：「高岡のゲストハウス」（2016年、富山）、「ピアノ室のある長屋」（2018年、東京）、「Cosmo-Eggs（ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展）」（2019年、イタリア・ヴェネツィア）、「杭とトンガリ」（2022年、東京）、「西大井のあな」（進行中、東京）。

取材・掲載の際には、担当者までご連絡いただくか、専用ページよりお申し込みください。

| 取材申し込み専用ページ | <https://benesse-artsite.jp/contact/press/>

アーティストプロフィール

下道基行（したみち もとゆき）写真家／美術家

1978年岡山生まれ。2001年、武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。代表作に日本国内の戦争遺構の現状を調査する「戦争のかたち」（2001-2005）、祖父の残した絵画と記憶を追う「日曜画家」（2006-2010）、日本の国境の外側に残された日本の植民／侵略の遺構を探る「torii」（2006-）などがある。フィールドワークをベースに、生活の中に埋没して忘却されかけている物語や日常的な物事を、写真や映像、収集などの手法によって編集することで視覚化する。2019年、ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展日本館の参加アーティストでもあり、国内外の展覧会や出版で活動。さらに、作家として作品をつくることと並行して、様々な人々とのコラボレーションや学生とのラーニングなどのプロジェクト活動も多数行っている。2019年、《瀬戸内「 」資料館》を企画し「館長」に就任。

インフォメーション

- 開館日 : 2023年4月～2024年3月、毎週土曜日
休館日 : 日曜～金曜 ※2024年1～2月は終日休館
開館時間 : 13:00～17:00（最終入館 16:30）
会場 : 宮浦ギャラリー六区〒761-3110 香川県香川郡直島町2310-77）
鑑賞料金 : 520円
アーティスト：下道基行
キュレトリアル・アドバイザー：三木あき子
主催 : 公益財団法人 福武財団

春休みのイベントのお知らせ

開館初日の4月1日（土）、子どもたちや島の方々を対象にした以下のイベントを開催します。

1. 館長による瀬戸内の児童書／絵本の紹介展示

《瀬戸内「 」資料館》館長の下道基行が選んだ、瀬戸内に関する児童書や絵本を収蔵展示室で展示します。

日時：4月1日（土）13:00～17:00

2. 春の陶芸体験

「へんこつ」では下道館長と島の方々による「窯工研究会」が活動しています。今回は直島にお住まいの方を対象にした陶芸体験を開催します。

日時：4月1日（土）14:00～16:00

人数：先着7名様 ※要申込

申込方法：電話 087-892-4455（受付時間：月～金曜 9:00～17:00）担当 福武財団・金廣、中岡

取材・掲載の際には、担当者までご連絡いただくか、専用ページよりお申し込みください。

| 取材申し込み専用ページ | <https://benesse-artsite.jp/contact/press/>